

砥部焼創作 成長の証し

松山「障がい児体験事業」作品展

個性光る40点「見てほしい」

創作体験で砥部焼を作った障害のある子どもが、自身の作品の展示会場を訪れる見学会が5日、松山市道後樋又の松山大樋又キャンパスであり、子どもや保護者、福祉施設職員ら約40人が作品を眺めて楽しんだ。



創作体験は、砥部焼作りなどを通じて地域社会とのつながり、生きがいを感じてもらおう「障がい児創作体験事業」として県中予地方局が2021年度から実施。22年度は中予の放課後等デイサービス4施設を利用する20人が参加した。

子どもたちは砥部焼の女性作家グループ「とべりて」に教わり、8月にろくろ、たたらによる成形と絵付けに挑戦。お気に入りのキャラクターや生き物などを思い思いに描いた皿、湯飲みなど作品計40点を完成させた。

県などによると、参加した子どもたちは手が汚れるのを嫌う癖を克服したり、コミュニケーションが増えたり、創作をやり遂げて自信を深めるといった成長を見せたという。

創作体験で砥部焼を作った子どもが展示会場の松山大を訪れた見学会

5日、展示会場に集まった子どもたちは自分の作品を探し、他の子の作品も鑑賞。お気に入りのぬいぐるみを描いた皿2枚を作った松山市の小学2年菅谷優太君(8)は「上手にできた。たっさんの人に見てほしい」と話した。

22年度の創作体験には松山大の学生地域創造研究所Museのメンバー4人も参画。放課後等デイサービスや砥部焼などについて学生目線で取材し、動画を制作した。今後、県公式YouTubeで配信される。

Muse代表の人文学部3年西村和真さん(20)は「デイサービスでは職員さんからやりがいを聞き、感動した。子どもたちや砥部焼のことを知ってほしい」と話した。

松山大樋又キャンパスでの作品展示は10日まで。12月11日(火曜除く)に県美術館、来年1月10日(水曜除く)に砥部焼陶芸館、2月7日(土)祝日除く)に伊予銀行森松支店、2月21日(3月3日(同))に県中予地方局でも実施する。動画も放映予定。